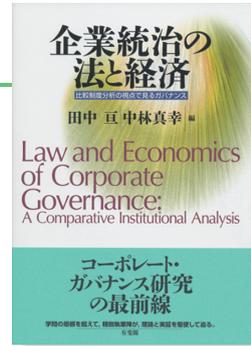


企業統治の法と経済

田中 亘 = 中林真幸 編

2015年3月刊/416頁/本体3800円+税
A5判/並製



編集
担当者
から

当事者が事前に互いの完全な情報を得て契約を交わすことは難しいという現実のもと、企業を取り巻く利害関係者のより良い厚生を達成するための仕組みを、本書では企業統治と捉えます。

法律は民法、会社法、労働法から、経済は経済理論、ファイナンス理論、労働経済、経済史といった多様なバックグラウンドをもった精鋭執筆陣が集まり、契約理論、とりわけ不完備契約に関する経済理論と、複数の制度が関係しその安定性を高める制度補完性といった比較制度分析の知見を共有することで、多面的なアプローチによる知を結集することが可能となりました。日本の経験に焦点を当てて理論と実証でコーポレート・ガバナンスを分析・展望します。

ゼミ学習、卒論執筆や研究のためにぜひ手に取っていただきたい一冊です。(F.Y.)²

Index



精鋭執筆陣による、コーポレート・ガバナンスの最先端研究です。

序章 企業統治を分析する視点 (田中 亘) 第1部 企業統治の基礎理論

- 第1章 雇用者学習と企業特殊的人的資本 (加藤 晋)
- 第2章 中間管理職の役割と人事評価システム (大湾秀雄)
- 第3章 継続的契約関係と法 (石川博康)
- 第4章 ガバナンスの自律と他律 (佐々木 弾)

第2部 戦前日本の企業統治

- 第5章 企業の売買と境界 (中村尚史)
- 第6章 近代日本における株主総会と取締役会 (結城武延)
- 第7章 黎明期の企業統治と資本市場 (中林真幸)

第3部 「日本型」経営のゆくえ

- 第8章 不安定なシステムへの局所的な対応策としての企業統治 (ジョン・ブカナン) [田中 亘 訳]
- 第9章 ブルドックは企業価値の番犬か (胥 鵬)
- 第10章 機関投資家はコーポレート・ガバナンスをどのように見ているか (田中 亘)
- 第11章 1990年代以降の日本型雇用 (小野 浩)

第4部 企業統治改革の展望

- 第12章 非業務執行役員の役割と会社法 (武井一浩)
- 第13章 会社法改正と企業統治 (加藤貴仁)
- 第14章 労働法の動態と企業統治の方向性 (水町勇一郎)
- 第15章 新しいコーポレート・ガバナンスの可能性 (柳川範之)